東海大学機友会々報

祝機械系工学科設立三十周年

機友会会長　河西正彦

本日はまことにおめでとうございます。

東海大学機械系工学科設立三十周年記念祝賀会にお招き頂き、松前学長、萩工学部長、安部同窓会長はじめ、お世話になりました教職員方々の御前で、ご挨拶の機会を得ましたことは光栄の至りであります。

私共機友会は、機械三系同窓会の一つで約七千名の卒業生で組織されており、本学全卒業生の約5%にあたります。学科設立三十周年とは卒業生も二十六年の年代に渡って社会で活躍していることであり、それぞれ皆学科に対する想いを異にするかも知れませんが、私同様今日の学科の発展に驚き、誇りに感じ、また教職員のご努力に対し、敬意を表しておられることと確信しております。

さて三十周年の歩みにつきましては機友会会報（十一月三日発行第9号）に康井主任教授により、また本日頂きました記念誌にも詳細なる説明があります。学科の歴史は、「草創期」の三年間、「基盤充実期」の七年間、「拡充発展期」の二十年間の三期に分けられ、各期における学生の動向、教職員のご活躍、各研究室の設備の拡充、また発展する学科の管理方法の整備にいたるまで非常によく説明されています。

これは三十周年の節目に相応しい貴重な資料で、また行間に見えかくれする、教職員の方々の不断の努力に思わず、喝采を送りたくなる心境であります。

さらに、今では学科は海外にまで発展するようになりました。タイ国モンクット王工科大学への協力で先生方がご活躍されている様子は大変素晴しいことであります。また学会活動なども非常に、国際的になってきました。これは国際協力に力を注がれた故松前重義総長も、さぞお喜びのことと思います。

さて、私共機友会は、生友会、精密機械同窓会と同時に本年十周年の節目を迎え、機友会は十一月三日に記念パーティーを開催しました。機友会は学科を通じて大学の発展に寄与する目的で運営されておりますが、今日の学科の発展を見て、私共もっともっと会の充実を計らなければという気概が湧いてまいりました。立派な学科に寄与するということは、私共の会も学科から期待される力量を培わなければならないということであり、より一層の努力をすることを誓う次第です。

どうかこれからも総長先生のご指導のもと各界のご期待に応えられる学科へと更に発展されることをお祈り申し上げ、ご挨拶とお祝いのことばとさせて頂きます。ありがとうございました。

河西会長と康井先生

機友会発足10周年記念パーティ

機械系工学科設立三十周年を二十一世紀への飛躍に

動力機械・第二工学部機械科　主任教授　康井義明

昨年（平成三年）、機械系工学科は生まれて30歳を迎えた。人間にたとえれば、人生の大きなターニングポイントとなる年齢である。これからが本領発揮されると同時に、試錬にたたされる時期を迎える。

機友会諸氏は、母校である東海大学機械系工学科で若い時代の数年間（人によってはもう少し長く）を過ごした。短かく感じた人、長く感じた人、いろいろだと思う。どちらにしても社会へ巣立つ前の青春のひととき、機械系学科を専攻した仲間である。

その仲間が設立三十周年を祝って、昨年十一月二十四日、東京永田町のキャピトル東急ホテルに駆けつけた。松前紀男学長、萩三二工学部長をはじめ機械系卒業生七百余名が集った。

卒業まもない二十代から、五十代の同窓生まで幅広い年齢層がいて賑やかな楽しい雰囲気で懇親が行われた。会場のあちらこちらで語らいの輪が拡がり、学生時代のこと、実社会での生活のこと、人生論などを「つまみ」にして杯をかわしていた。

卒業生の何人かが私の処へ来て「今日はいいですね。機械工学を専攻した自分達は社会に出て、いろいろな体験をしているけれど、同じ学科の卒業生が皆元気で頑張っているのを目にして、とても刺激をうけました。また大学時代にお世話になった先生方とも久し振りにお会いでき、励まされました。」と赤ら顔で話してくれた。三十周年記念祝賀会開催の意義があった。

当日は、三十周年事業の一環として発刊した、「設立記念誌」が参加者全員に配布された。同誌には機械系工学科設立から現在に至るまでのあゆみが記されている。

機械系工学科の誕生と発展の足跡はまさに東海大学の歴史でもある。それは創設者松前重義前総長の若き時代に提唱した科学技術者運動の実践から生まれた真の技術者教育理念の結実といえる。

松前紀男学長へ寄付の贈呈

教育と研究を行うことは、大変な仕事である。その成果は一朝一夕で表われるものではない。機械系工学科三十年間のあゆみは、教育現場に携わる教職員と学生、そして卒業生の三者が、各々の立場で切磋琢磨して現在を創りあげ、社会で認知を受けてきた歴史である。これら関係諸氏の努力が今、報われつつあるように思われる。

今春、機械系工学科を卒業して機友会員となられる皆さんは四年間東海大学で学んだことを実社会で自在に生かして欲しい。科学技術はもちろんのこと世の中が大きく変革している時こそ、若いフレキシブルな力が社会に必要である。

皆さんの母校学科も着実な前進のために、工学教育と研究に邁進する。まだ30歳（設立三十周年）。体力も気力も充分である。次へのステップ、二十一世紀に向けて飛躍したい。このためにも機友会諸氏と機械系学科はお互い協力しあって行きたい。

機械系工学科設立三十周年を機に、今後も社会と卒業生の負託に応えられるよう汗をかこうと思う。

機械系工学科設立30周年記念祝賀会

東海大学創立五十周年記念事業に協力しよう

東海大学は故松前重義総長によって昭和十七年に創立され、本年五十周年を迎える。これを記念して大学では、いろいろな記念事業（第4面をご覧下さい）が行なわれます。機友会員諸兄もどうぞこの記念事業に大いにご協力をお願い致します。

東海大学機友会事務局
湘南校舎　動機事務室
〒259-12　神奈川県平塚市北金目1117
☎ 0463(58)1211(内)4321
印刷　信友印刷株式会社
☎ 03(3444)2481(代)

Kiyu

祝　東海大学建学50周年
水と空気と環境の明日を考える… 荏原グループ
荏原製作所・荏原インフィルコ・荏原サービス・荏原プラント建設・荏原実業
EBARA

故牧野不二雄先生を偲んで

工学部長・教授　萩　三二

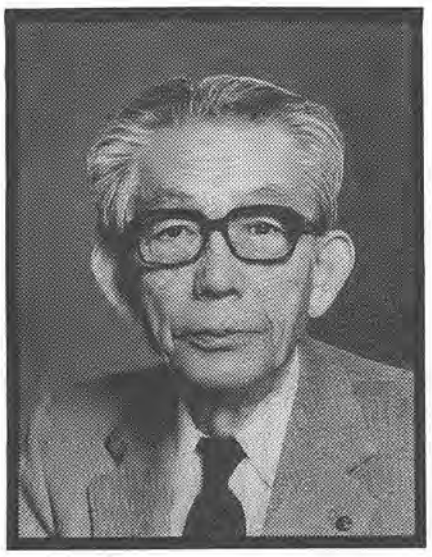
東海大学理事、東京短期大学部学長であり、私の大変お世話になった恩師である牧野不二雄先生が一月十三日午前三時四十八分に本学医学部の伊勢原の付属病院でご逝去になった。そのすぐ後の一月二十五日には私が学校を出て東海大学に勤めるまでの十二年間研究についてご指導を頂き、学位を取らせて頂いた私の研究の恩師であり、また多くの東海大学の原子力工学科、動力機械工学科の学生が卒業研究でお世話になった東京大学工学部の西脇仁一先生がご逝去になり、ごく短い期間に私の人生で一番大切な二人の恩師をなくしてしまった。

牧野先生との出合いは東海大学の前身の航空科学専門学校で微積分の授業を受けた時です。数学の先生は二人いられて、もう一人は井川先生という方でした。井川先生の講義は非常にゆっくりと丁寧な講義でしたが、部屋に帰って復習するとわからなくなる講義で、牧野先生の講義はそれとは対照的に立て板に水を流すような講義で、黒板にものすごいスピードで式を書かれ、うつすのに苦労しますが、帰ってからノートを整理してみると完全に理解されてくる講義でした。

まもなく戦局も厳しくなり、私共二期生も工場に動員されるようになったが、三ケ月位で一期生、二期生合せて十数名が戦時研究員となり学校に帰され勉強をすることになった。牧野先生の偏微分方程式の講義など三人の数学の先生と一人の物理の先生の講義が毎日行われ、非常に高度な内容であったため終戦後の授業再開後は数学だけは自信ができていて助かった。学校は全寮制だったのでこの期間は時々牧野先生の宿泊されているお宅に皆で伺って、食糧難の時代なのにご馳走になったり大変お世話になった。三十年に牧野先生から呼び出しがあり、東京の丸ビルの松前重義事務所でお会いし、東海大学で非常勤講師としてお手伝いすることになった。三十三年夏に、三十四年度から東海大学の専任講師になれるよう牧野先生がわざ〳〵東大の西脇先生の部屋まで依頼に来て下さった。東海大学に入ってからは学務局長の牧野先生の下で教務課長や短大課長をしたり、学長牧野先生の下で教授をしたり、常に先生のご指導、お世話になって来ました。

先生は熊本出身で、松前重義総長の建学の精神に深く共鳴され、航空科学専門学校が開校するとすぐに教授になられ、それから松前前総長と常に一諸に東海大学発展にご尽力されて来ました。前総長の公職追放、学制改革により各県に次々と新制大学が乱立するようになり、東海大学の志願者が急激に減少し、先生方に対する給与の遅配や欠配が起った二十五年から三十年の苦難の時代には先生は私財を売って若い先生達に援助をされたと聞いています。しかし先生方は歯の抜けるように次々とやめて行き、三十年に大学が清水市から東京の代々木に移転した時に移った先生は牧野先生ら二人だけだったそうです。このように前総長を助け、苦労を共にしながら大学の発展に努力されてこられました。五十一年には教育に尽くされた功績により勲二等端宝章を受章されたことは皆の喜びでした。数年前からは「総長に寵めたいと申し出たら俺が生きている間は寵めることはまかりならんといわれた、私がボケたと思ったらすぐに寵めさせるように総長に話してくれ」とよく云われましたが、いつまでも明晰な頭脳をされていました。前総長が逝去されるとそれを待っていられたかのようなご逝去で、今頃は天国で前総長と東海大学での苦労や楽しかった事などをお話になっていられる事と思います。親のように暖かく面倒をみて頂いた先生がご逝去になり、あらためてそのご恩がつく〴〵有難たく思い出される毎日です。

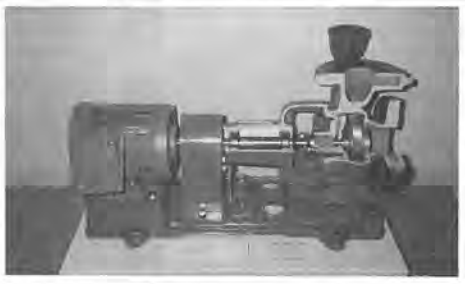
牧野不二雄元学長逝去



学校法人東海大学理事、東京短期大学部学長の牧野不二雄教授が一月十三日午前三時四十八分、呼吸不全のため、神奈川県伊勢原市の東海大学医学部付属病院で逝去された。八十六才。葬儀、告別式は一月十四日午前十一時から東京・渋谷区の日本キリスト教団原宿協会で、また東海大学葬が、三月二十一日午後一時から東京・港区の青山葬儀所で執り行われた。

牧野教授は明治三十八年七月十一日生。昭和十八年五月から航空科学専門学校(現東海大学)教授となり、以後旧制および新制東海大学教授、東海大学学長などを歴任され、東海大学の発足当時から故松前重義総長の同志の一人として学園の発展、充実に尽力されてきた。昭和五十一年に勲二等瑞宝章を受章している。

単段うず巻ポンプのカットモデルを学科へ寄贈



機友会創立十周年と機械系四工学科三十周年を記念して㈱荏原製作所・荏原サービス㈱から単段うず巻ポンプのカットモデル(2台)が機友会を通じて学科へ寄贈された。

機械の構造が理解できなければその機能も理解できない。機械工学を学ぶ学生にとってテキストに載っている図面のみから機械の構造を理解するのは難しい面がある。特にポンプのインペラーや案内羽根などは実物を見れば一目瞭然、できればカットモデルがあればと切望されていたところである。

寄贈されたポンプのカットモデルは、構造・機能が最も良く理解できる様にカットされており教材として最適のものであった。学科では、今後流体工学や設計製図の授業などに有効に役立つと期待しており、感謝している。

なお、モデル展示用の台や銘板などは河西機友会々長の勤めるイースタン技研㈱のご好意で製作して頂いた。紙面をお仮りして荏原製作所殿・荏原サービス殿・イースタン技研殿に厚く御礼申し上げます。

平成三年度卒研発表会・謝恩会開催される

平成四年二月十四日㈮に平成三年度卒業予定の学生による卒業研究発表会が東海大学湘南校舎六号館にて午前十時より開催された。発表会は生産機械工学科との合同で、一七九の研究発表が十一の会場に分けて行われた。どの会場でも活発な質疑応答がなされ、たいへん密度の濃い有意義な発表会であった。

発表会終了後、大学院修士課程修了予定者を含めた学生諸君による謝恩会が厚木ロイヤルパークホテルにて午後六時より開催された。まず謝恩会幹事長の安田義成君から足が震えながらも先生方への謝辞が述べられ、開会された。

来賓を代表して工学部長の萩三二教授、康井義明主任教授から発表会の論評も加えながら祝辞が述べられ、また機友会を代表して河西会長より祝辞と機友会の意義および活動状況について説明があった。その後機械系四学科創立三十周年を記念して「パーソナルコンピュータ一式」を本学科に寄贈した東亜電設株式会社代表取締役社長鈴木雅英氏(昭和四十六年度卒)に、萩三二工学部長から感謝状が贈呈されると共に「みなさんも頑張って出世し、鈴木先輩のように大学のために寄与して下さい」との一言が付け加えられた。引き続き記念品の贈呈があり、「編集機能付ビデオ装置一式」の目録が学科に贈られた。

乾杯の音頭は修士課程二年の北山和弘君が行い、一気ににぎやかな祝宴となり、みな充実した発表ができたと見えて、まるで卒業パーティーのような雰囲気であった。

最後は高本慶二副主任教授による万歳三唱でしめられ、盛況のうちに謝恩会は終った。

一方、第二工学部機械工学科の平成三年度卒業研究発表会は二月十八日㈫午後六時より、代々木校舎四号館で開催された。発表内容が年々充実してきており、毎年三月には日本機械学会学生員卒業研究発表講演会で発表するまでに至っている。また恒例となった機械工学科学生諸君による謝恩会が、卒業式当日(三月二十五日㈬)に東海大学同窓会館で行われる。

卒研発表会の模様

平成3年度謝恩会

機友会賞

機友会賞は本機友会が、学業によく励み、かつクラスの団結に寄与した学生、あるいは特別な努力や学科のために貢献した学生等に授与される賞であり、今年度は卒業式当日次の学生に授与される。受賞おめでとう。

奥成　大輔　市川　弘
中野　敏　田原　和彦
石島　崇　茂原　光伸

機友会特別賞

田代　努　西川　健治
山田　昌成　横森　広紀
和田　努　川口　清弘
濱川　達　矢ケ崎　勉
横山　洋行　鬼頭　徹
清野　拓也　秋山　良昭
板倉　康夫　庄山　修
水上　政義　横溝健一郎
湯田坂哲史　川島　雅行
江口　泰介　下澤　峰彦
山本　信也　山下　圭司
市川　泰章　上田　道彦
蓑輪　俊雅　吉田　俊博
小宮　正幸

祝　東海大学建学50周年

EBARA

荏原インフィルコ株式会社
(エバラ)
〒108　東京都港区港南1-6-27　☎03-5461-5111

—美しい環境を人類の共通財産として—

卒業生　佐藤百一(S48卒)　河合明比古(S51卒)　小木曽信哉(H3卒)

浄水・用水処理　水質汚濁防止　廃棄物処理　悪臭防止　化学装置　自動制御・測定・分析機器　医療用具・医薬品　水処理・工業薬品，その他化学製品　環境関連事業

「機友会」とは！

内山　皓

「機友会の存在意義は何か!!」このテーマは、いつも幹事会にて論議されているメインテーマで、永久に事業計画の柱となる問題と思われます。十年間を振り返りますと小林会長から、河西会長にバトンタッチされ、創設期から第一活動期へと進展してまいりました。たゞ事業計画が企画案の段階で足踏み状態のものが多く、その主な原因は、予算にあります。

優しくて頼りになる機友会幹事の方々

年間予算三～四百万円のうち機友会の存在をアピールするための会報を年二回発行して会員（約七千名）に郵送すると、それだけで約二百万円弱かかります。したがって財務の増収が急務であります。

財務の安定を計るための案としては各企業に機友会を積極的に支援してくださいますよう、「機友会賛助会員制度」を設ける方針です。またすでに、十年会費を納入して頂いた会員のなかで、十年を経過した方にも会費の更新に協力をお願いする予定です。

機友会の活動母体であります幹事会も近年は月に一回代々木校舎にて開催し（平成四年二月十四日第六十一回幹事会）毎回十名前後の幹事にて下記の議題を討議し、その結論にそって事業計画を実施しています。

今後とも会員皆様の一人一人の御支援と学科の御協力をえて学科と共に成長・発展をしていきたいと思います。何とぞよろしくお願い申し上げます。

主な活動

賛助会員の募集
今期より各企業に御協力を要請、会報等を通じて契約企業の案内及び広告費の割引き、特典制度

会員名簿の発行
・毎年新会員（卒業生）のみ発行・配布（卒業式当日）
・4年毎に会員名簿発行

会報の発行　年2回発行
・3月（卒業式当日）一般記事
・11月（卒研ゼミナール特集号）・一般記事

懇親会開催
毎年11月3日に湘南校舎「松前会館」にて午後3時より開催（会員、教職員、先生方及び御家族も参加）

総会・代議委員会開催
3年毎に開催（過去4回開催）

幹事会開催
近年は毎月1回開催（代々木校舎4号館4408教室）毎月第2または第3土曜日午後3時30分より。すでに61回開催。

機友会賞表彰
卒業式当日に新卒者より優秀学生を表彰。

特別賞　4名
機友会賞　30名位

地方支部作成
全国6ブロック化にて展開中

機友会運営組織拡充
副会長が各部会（総務・財務・組織・事業・広報・会計・事務局）を中心に活動して草案作成をする。

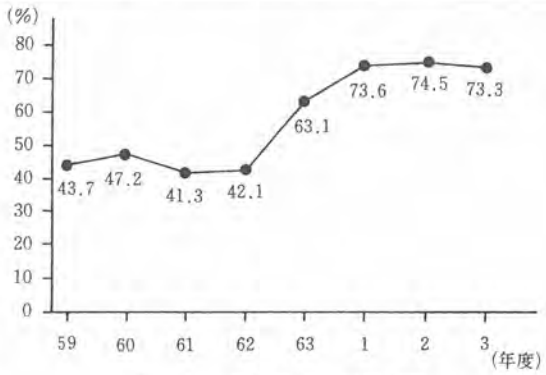
就職の動向

就職の状況は一昔前に比べると一変している。図1に見られる通り上場企業への就職率は十年前の三十%台、昭和六十二年度以前の四十%台から急上昇して過去三年間は七十%以上を維持しており、工学部十六学科中最高である。この要因は長い好況を持続した平成景気に伴う人手不足と企業の旺盛な求人意欲によることが多いが、先輩諸兄の実社会における御活躍により当学科卒業生の社会的評価が向上していることに加えて歴代の就職担当者および全教職員のたゆみない努力があり、更に学生諸君の意識と行動の転換があげられる。企業の求人情報は全学生に公開され、学生は求人情報とアイウエオ順に整理された企業別ファイルを調査し、更に企業毎の採用実績と入社難易度をコンピュータで検索して自分の志望先を絞り込んでいる。就職を斡旋する場合は安全側にはり勝ちであるが、自分が選んだ会社に果敢に挑戦する意欲的な学生によって新しい就職先が開拓され、入社難易度も年毎に塗り変えられている。

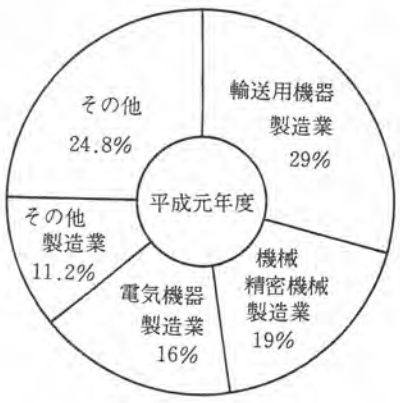
図2に過去三年間の業種別の就職先を示すが、四分の三が製造業に就職しており、メーカー離れが進み金融、証券などの文系就職が多い他大学の機械科に比べて健全であり、「モノづくり」の重要性が再認識されている昨今頼もしい限りである。製造業のうち輸送用機器が断凸であり、以下機械・精密、電気機器という順序は変らない。主な就職先は別項に示す通りで、カタカナ名が増した他、内容もかなり変っている。かって多数の卒業生が就職した建設業やエンジニアリング会社、コンピュータソフト分野は漸減しており、先輩多数がおられ関係が深かった企業の中にも縁遠くなったところもある。毎年十数百社の求人があり多勢が十二号館に来訪されるが実際に就職するのはこのうち二百社程度であり、残り千社余りの企業の期待に応えられないでいるのが就職担当としては心苦しいところである。

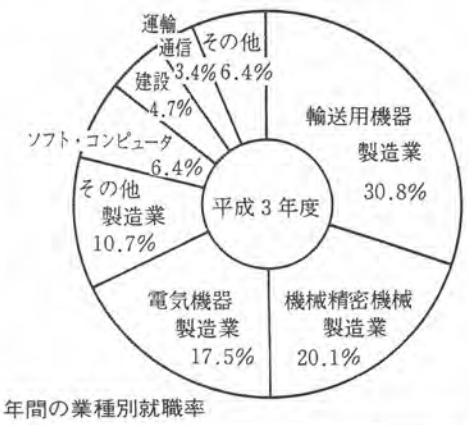
わが国の景気は一年前に比べて様変りとなり、バブルの崩壊、自動車、コンピュータに加えて住宅から百貨店まで売上げ不振となり、企業収益の悪化、設備投資の削減など調整局面は厳しさを増しており、日経新聞の「晴れの業種」もかって不況産業の代名詞であった造船、プラントのみという有様である。しかし長い間の売り手市場で考えが甘くなっている学生にとって頭を冷やすよい機会といえる。知名度の高い企業や自動車関連以外に働き甲斐のある優良企業は沢山ある。企業の浮き沈みは常であり、瞬間風速に惑わされずもっと世の中を幅広く捉え、自分の能力、性格に合った職場を真剣に探してもらいたいし、機友会の諸先輩には後輩の問合せに対し親身の御指導をお願いする次第である。

（就職委員長　福垣敦男）



図―1　上場企業への就職率





図―2　過去3年間の業種別就職率

主な就職先

三菱重工業、石川島播磨重工業、三井造船、トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、三菱自動車工業、いすゞ自動車、富士重工業、マツダ、スズキ、ダイハツ工業、日野自動車工業、トヨタ車体、関東自動車工業、日産車体、日産ディーゼル工業、小松フォークリフト、小松ゼノア、ヤマハ発動機、日本飛行機、新明和工業、トキコ、曙ブレーキ工業、NOK、カヤバ工業、シロキ工業、市光工業、カルソニック、アツギユニシア、日本エヤーブレーキ、日野車体工業、自動車部品工業、橋本フォーミング工業、京浜精機製作所、関東精器、三国工業、ジャムコ、ジャトコ、日産工機、日立製作所、東芝、日本電気、富士電機、富士通、富士通ゼネラル、松下電器産業、九州松下電器、沖電気工業、日本ビクター、シャープ、日本電装、東京電気、スタンレー電気、アルプス電気、芝浦製作所、高岳製作所、日本エヌ・シー・アール、新潟鉄工所、住友重機械工業、小松製作所、荏原製作所、赤阪鉄工所、ゼクセル、日立精機、日本精工、NTN、アマダ、アマノ、アイダエンジニアリング、牧野フライス製作所、豊田自動織機製作所、クボタ、タダノ、ダイキン工業、油研工業、北沢バルブ、日本気化器製作所、日本ギア工業、東京自動機械製作所、ニコン、キヤノン、トプコン、オリンパス光学工業、リコー、ニフコ、トキメック、グラフテック、岡村製作所、三機工業、東芝プラント建設、九電工、朝日工業社、日清紡績、横浜ゴム、東洋ゴム工業、オカモト、川田工業、トーヨーサッシ、日本発条、リョービ、全日本空輸、エヤーニッポン、キヤノン販売、オートバックスセブン、CSK、メイテック、三菱自動車エンジニアリング、MHIさがみハイテック、いすゞエンジニアリング。

―― 産業用遠心分離機のトップメーカー ――

巴工業株式会社

本　　社　〒103 東京都中央区日本橋3-9-2（第二丸善ビル）
TEL.（03）3721－4055
サガミ工場　〒242 神奈川県大和市上草柳193番地
TEL.（0462）62－0511

東海大学建学50周年を成功させよう

記念募金目標額は50億円 同窓会は5億円を目標に

推進委員を中心に全ての会員とともに

東海大学は1942年(昭和17年)に創立以来、建学50周年を迎えます。

この記念すべき50周年を機に、学園は21世紀に向けて一層の飛躍をはかるべく、種々の記念事業を推進することになりました。

東海大学同窓会としましては、安部信一郎会長のもとに東海大学建学50周年記念事業募金同窓会実行委員会を組織し、支部同窓会、学科同窓会ごとに目標額を定めて総額5億円を目標としてご協力を致すことになりました。

同窓会実行委員会は、本部をはじめ各支部同窓会ならびに学科同窓会にそれぞれ推進委員会を組織いたしましたが、目標達成のためには14万人全ての会員の皆様のご協力が必要であります。

私達実行委員会メンバーは推進委員の方々と協力し率先して努力してまいる所存でありますが、是非とも会員の皆様とともに5億円の目標を達成致したく、ここにお願い申し上げる次第です。

東海大学建学50周年記念事業募金
同窓会実行委員会
委員長　鳥羽瀬　正一(工60・電子)

母校の発展に協力を

東海大学同窓会会長
安部　信一郎

我々の母校東海大学が、本年建学50周年を迎えるに当たって、同窓生のひとりとして心からなるお慶びを申し上げます。

特に建学の草創期に籍を置いた者のひとりとして思うことは、戦中戦後の混乱期を乗り越え、今日の総合学園を形成するについては、故松前重義先生、松前達郎理事長・総長の言葉にもありますように、なみたいていのご努力では成し得なかった大業であり、そこには関係各位の同志的結合と、ゆるぐことのない建学の理念、理想をあくまで貫き通された決断と実行のたまものであったと思うのです。

このことは、我々同窓生にとっても大いなる誇りであり、勇気の源泉ともなっているのであります。

東海大学は、今や国内における評価はもとより、諸外国の大学・研究機関とも積極的な交流を進めており、人類の幸福と平和の実現を目指して国際的な活動を行う総合大学として、世界中から注目されるところとなっています。

同窓会も、東海大学建学50周年には、その会員数が15万人体制に、そして21世紀には20万人規模へと発展して参ります。今ここに、建学50周年を期し、さらなる発展を目指す母校の記念事業に関する諸計画が発表されました。

我々同窓会としても、この趣旨に賛同すべく、すでに役員会・代議員会等で協議の上、全面的な協力をいたすことになりました。同窓生各位におかれましては、何卒、母校の発展、充実に向けて格段のご理解とご支援をお寄せいただきますようお願い申し上げる次第です。

東海大学機械系工学科より100万円

去る11月24日午後3時よりキャピタル東急ホテルに於いて、東海大学工学部機械系工学科設立30周年記念祝賀会が開催されました。当日は大学から学長を初め香取理事、萩工学部長他70名、卒業生650名が出席し、30年を祝うと同時に和やかな雰囲気の中に旧交を温めました。席上機械系工学科記念行事委員会代表幹事・青木克己氏より松前紀男学長に東海大学建学50周年記念募金協力として100万円が贈呈されました。

EBARA
祝 東海大学建学50周年
— 快適な生活環境の維持、発展に貢献する —
当社はポンプ業界最大手の荏原製作所グループ会社(100%出資)です。
荏原(エバラ)サービス株式会社
〒144 東京都大田区羽田旭町13-3 ☎03-3743-7311
卒業生　柳川雅春(S45)　小杉伸一(S51)　鈴木浩司(S59)
エバラサービスは、海外市場を含む 水と空気と より良い環境作りのスペシャリスト集団です。

新たな歴史の創造
1992年、東海大学は建学50周年

1992 TOKAI UNIVERSITY
東海大学建学50周年

主な建学50周年記念事業

- 「松前重義基金」の創設
- 大学、短期大学および付属諸学校の教育・研究用施設設備の充実
- 調査・研修船の建造
- 国際シンポジウム・モスクワ大学博物展の開催
- 建学50周年に関する各種記録の刊行、製作

※この他、東海大学は建学50周年記念式典の開催、国際交流会館の建設、山中湖セミナーハウスの建設、医学教育センター・分子医学医療研究センターの建設等も計画しています。

建学50周年記念事業資金募集要項

1. 募集名称　学校法人東海大学建学50周年記念事業募金

2. 募集期間　1991年9月1日～1994年8月31日

3. 募金目標額　50億円

4. 寄付金区分

1. 個人　1口　1万円　何口でも可
なるべく2口以上のご協力をお願い致します。1口未満のご寄付もありがたくお受け致します。
2. 法人　1口　10万円　何口でも可
口数によらずご協力をお願い致します。

5. 寄付金の申込および振込方法

(1) 寄付金の申込

法人の場合のみ、別途日本私学振興財団指定の「寄付申込書」を記念事業室にご請求願います。これにより指定寄付金としての受領書発行手続きが行われます。

個人の場合、上記「寄付申込書」は必要ありません。

(2) 寄付金の振込

添付の払込用紙をご使用下さい。

法人の場合、払込用紙の通信欄に決算月日をご記入下さい。

※なお、お申込～受領書発行までには相当な日数を要しますのでご留意頂きたく、特に月末など金融機関混雑時を避けてのお振込をお願い申し上げます。

6. 寄付金に対する減免税措置について

寄付に対して個人、法人にかかわらず、寄付金に対しての減免税措置を受けることが出来ますので是非ご利用いただきたいと思います。

(1) 個人の場合

① 個人が学校法人等に寄付した場合、寄付金の年額が1万円を越えた金額について、当該年度の課税所得から控除されます。但し、寄付金の総額は年間総所得額の25%までを限度としております。

② 免税の手続きは、寄付をした翌年の2月から3月の間（確定申告期間）に本学発行の「寄付金領収書」と「特定公益増進法人証明書」の写しを所轄税務署に提出して確定申告を行い、所得税の還付請求をすることになります。

(例)　寄付金に対する減免税額試算

課税所得300万円で所得税30万の人が下記金額を寄付し免税される額

5万円で	4,000円
10万円で	9,000円
20万円で	19,000円
30万円で	29,000円
50万円で	49,000円

課税所得500万円で所得税70万円の減免税額

5万円で	8,000円
10万円で	18,000円
20万円で	38,000円
30万円で	58,000円
50万円で	98,000円

課税所得800万円で所得税150万円の減免税額

5万円で	12,000円
10万円で	27,000円
20万円で	57,000円
30万円で	87,000円
50万円で	147,000円

(2) 法人の場合

① 法人の寄付金に対する免税の措置は、寄付金額が当該事業年度の損金に算入されますが、損金算入にあたっては、指定寄付金（全額損金に算入できる寄付金）と特定寄付金（損金算入限度額以内の場合）のいずれかの選択が必要となります。又、法人地方税は法人税の納付額を基礎に計算されますので、法人税の減免に伴い地方税も減額となります。

② 指定寄付金（全額損金に算入出来る寄付金）

(1) この寄付金は、全額当該年度の損金に算入されますが、日本私学振興財団指定の「寄付申込書」が必要です。

(2) 指定寄付による免税手続きには、日本私学振興財団発行の「受領書」が必要です。

③ 特定寄付金は一般の寄付金とは別枠で、一般の寄付金の損金算入限度額と同額まで損金に算入出来ます。学校法人東海大学発行の「寄付金領収書」と文部省の「特定公益増進法人証明書」の写しによって手続きが必要です。

この募金に関するお問い合わせは、下記にお願い致します。

〒151 東京都渋谷区富ケ谷2丁目28番地4号

学校法人東海大学記念事業室

☎03-3467-2211（内線426,428）

祝 東海大学建学50周年

EBARA

『水と空気と環境の未来』をテーマに
電気・電子の先端技術を駆使して
豊かな生活環境の創造に努力する…

株式会社 荏原電産

本社：〒104 東京都中央区銀座1-3-1
TEL (03)3567-2471　FAX (03)3561-1720

藤沢事業所—〒251 藤沢市本藤沢4-2-1　品川事業所—〒108 東京都港区港南1-6-27　羽田事業所—〒144 東京都大田区羽田旭町11-1

会社訪問 ㈱ウエキコーポレーション

今回は機友会同窓の水口直氏（昭和四十七年度修士卒）が勤務している㈱ウエキコーポレーションを河西会長、飯島、星野の両幹事および私（副会長、伊藤）の四人で会社訪問しましたので、ご紹介します。

水口氏（47年卒）

㈱ウエキコーポレーションは、大田区久が原に本社があり、設立昭和十一年六月、資本金六千万円、従業員三百二十名、年間売上高二百七億円の半導体用材料ガス・工業用ガスの販売・金属材料・部品の販売、ガス関連装置・工事の設計施工、装置のメンテナンスまで取扱う専門商社です。

先代社長植木竹治氏が創業し、現在の社長武彦氏は二代目で、就任以来、取扱商品の拡大、営業拠点の伸長と共に社名も「植木商店」から昭和四十四年に「ウエキガス科学」、さらに平成元年に現社名に変更しました。

基本商品である「ガス」も、酸素、水素等からヘリウム、稀ガス（クセノン、クリプトン等）、半導体用材料ガスへと拡がり、特に半導体用材料ガスは、半導体ICチップ製造工程中、ウエハーの基板の表面の層を作るのに欠かせない材料として使われています。半導体がコンピューターからあらゆる機械、計器、OA機器、通信機、家電製品、車輌、ファミコン等に使われ、半導体産業が日本の景気をリードするまでに発展したが、ウエキコーポレーションもガスだけでなく、ガス関係の装置、安全システム、工事等の設計、施工を取扱うようになり、さらに東芝各工場内にガスの製造・供給と装置のメンテナンスを請負う事業所を設置し、半導体製造に日夜協力している。

ガス業界では、先端技術の半導体メーカーに対応できる総合エンジニアリングに強いスーパーディーラーとして、全国的に有名である。

ガスを主体に成長し、五十五年を超える長い歴史と豊富なキャリア、特に客先の信用を得ることを第一とする販売力と技術部門の高度な技術の集大成によってウエキコーポレーションは急速の発展を遂げている。

ウエキコーポレーションの技術部門は、主要取引先の東芝他半導体メーカーの技術革新とそれに伴う設備投資に対応するため、技術陣の体制強化が急務となり、現在の体制ができた。即ち、本社に技術本部をおき、その下に技術管理部（技術管理課）、技術一部（設計課、工事一課、工事二課）、技術二部（技術課）をおいて全社の技術を統轄している。

各地方事業所にも技術者を配置しているが、主力事業所の大分事業所は窒素製造装置の運転管理を含む八十名の大世帯なので、供給技術管理室をおき、現地での受注設備・工事の技術面の対応とガス供給技術の指導に当っている。これに技術二部が大分に駐在し支援協力の体制をとっている。

現在毎年人員を増やしているが、若手技術者はまだまだ不足しているとのことである。本社のほか、大分など地方にも勤務場所があり、東芝、日本電気その他大手取引先にも恵まれた成長有望企業として、学生諸君の就職先に推奨したい。

ガス関係だけでなく、十数年前から東芝特約代理店として、東芝製金属材料・部品・新素材等の分野にも進出している。最近の東芝新開発商品としてフロンに代わる「テクノケア」があるが、これの拡販にも力を注いでいる。

また、超硬工具メーカーの東芝タンガロイ㈱と共同開発した金属CVD装置を一手販売しているが、これを担当していた日向野保雄氏（昭和五十二年卒）は、平成元年三月ウエキコーポレーションと東芝タンガロイ㈱との米国における事業計画のための共同出資会社トウシバタンガロイ　マニファクチャリングインクに出向し、昨年米国でCVD装置販売に成功するなど大いに活躍している。

日向野氏（52年卒）

海外進出は米国に続き、近くタイに進出する予定で、目下現地法人の設立準備中です。タイでは現地に進出している日本企業に半導体関係のガスの販売、設備工事の設計施工を事業として展開する予定である。

また国内での事業活動の積極展開の事例をあげると、最近の五、六年間に新設した営業拠点は、横浜、埼玉、姫路、泉（仙台、浜松、広島、厚木の七ケ所に及んでいる。

業績の伸びも目覚ましく、昭和六十三年の売上高二〇八億円、経常利益三億円が、平成三年には売上高二〇七億円、経常利益六億円と飛躍している。

企業基礎の拡大、安定化に伴い、人材の育成強化にも力を注ぎ、「社員は会社の財産である」を会社経営の基本としています。

「会社は人によって発展もし、衰退もする。私は社員に恵まれた」と植木社長は述べられたが、トップと社員の一体となった努力の成果が今日の同社の姿であろう。

社員教育はOJT（職場教育）を中心にしていますが、社外講習への参加、自己啓発のための語学研修や資格取得、通信教育の受講等には会社が積極的に補助金を出している。特に特徴的に感じたのは、主要商品が高圧ガスのため全社員がこの知識を修得する必要があるとして、新入社員に高圧ガス取締法による「販売主任者」「製造保安責任者」等の資格取得を義務づけていることで、これは教育の即戦力化として大変興味深かった。

現在東海大学の卒業生は、前出の日向野氏のほか、水口直氏は技術本部技術管理部技術管理課で、また奥山俊英氏（昭和五十四年卒）は管理部総務課で活躍しており、「ぜひ後輩が入社して欲しい」と希望していた。

ウエキコーポレーション本社社屋

河西会長、飯島教授、伊藤副会長を囲んで

金属材料のキャラバンカー

奥山氏（54年卒）

本社野球部

東芝特約店（金属・新素材）
ウエキコーポレーション
〖旧社名：ウエキガス科学(株)〗
金属材料・新素材・金属CVD装置・半導体用ガス・各種設備(設計・施工)の専門商社

本社勤務　水口　直（S47年修士卒）
米国駐在　日向野　保雄（S 52 年 卒）
本社勤務　奥山　俊英（S 54 年 卒）

本　社　〒146　東京都大田区久が原5丁目33番10号
TEL (03) 3753－2211　FAX (03) 3753－7117
支　店　北関東・相模原　事業所　泉・姫路・北九州・大分
営業所　仙台・横浜・大阪　出張所　厚木・浜松・埼玉

タイモンクット王工科大学 技術協力の報告

動力機械工学科　飯島敏雄

機友会の皆様お久しぶりです。日本政府とジャイカ（国際協力事業団）が行っている、タイのモンクット王工科大学ラカバン（通称KMITL）の教育研究体制拡充プロジェクトを支援するため、一九八八年四月十八日より現地に行っておりましたが、昨年四月末に三年間の任務を終えて無事帰国しましたのでここに簡単に帰国報告を致します。

二年前の会報で述べましたようにKMITLは一九六〇年に訓練生わずか二十三名の電気通信訓練センターとして創設され、今では工学部を中心に学生数約六千名のタイ国一大きな、かつ評価の高い工科大学です。東海大学は日本政府とジャイカの要請を受けて約二十七年前から留学生を受け入れたり、あるいは先生方を長期で派遣するなどしてこのKMITLに協力してきました。

さて私の従事していたKMITL技術協力プロジェクトは一九八八年四月から五年計画で行われており、この三月末で四年目が終わります。ところで、これまで約三十年にわたってジャイカや東海大学が協力してきた電気通信、放送、データ通信（コンピュータ関係）の三分野はプロジェクトの目標を研究の充実におきましたが、機械工学の分野は同じようにはいきませんでした。KMITLの機械工学科は、最初は自動車整備工場のようなガランとした建物と、経験の少ない若い教員が十数名がいるだけという状態で、カリキュラムには系統的でない点があり、また機械工学実験もなければ、設計製図の時間も非常に少ない。実習用の機械は程々に揃っているが、学生実験用の機械や装置は殆どなく、製図室も製図台もない。これでは技術教育など出来るはずがありませんし、当然誰も研究などしていませんでした。事前調査の段階でタイで他の大学をいろいろ見学しましたが、KMITLの機械工学科はワーストであったと言っても過言ではありません。そこで、機械工学分野の目標は、五年間のプロジェクトの前半を教育体制作りと研究体制のベース作り、後半を研究体制の充実、それに最後は少し欲張り、協力の成果を生かしてタイ社会へ貢献までと定め、私はその前半を受け持ちました。一年目は主としてカリキュラムの改訂や現地語での専門教科書作りを行い、二年目には機材も入ってきましたので、実験装置類の製作や整備を行い、三年目は、改訂したカリキュラムを早取りして機械工学実験を開始しました。機械工学実験にはメカトロやCNC工作実習などもあり、来年度からはCAD・CAMのテーマも入る予定で、日本の大学の実験実習と全く遜色ありません。また設計製図も、教室だけあって機材のない土木工学科の製図室を共同で使うことに話がまとまり、そこにドラフタを購入し、セットしました。その教科書もでき、四年目には新カリキュラムにそってきちんと設計製図の授業が出来るようになるなどほぼ教育体制は確立しました。

一方研究についても二年目から東海大学の機械系四学科のいろいろな先生方に来ていただき、それぞれ専門に応じてKMITLの先生方を個別に指導してもらうなどして研究体制のベース作りを始めました。まさにゼロからの出発でしたが、おかげで少しづつ研究ができるようになってきました。研究用機材も年々いろいろはいりだし、各教員に個別の実験室なども整備されて研究環境が整ってきましたので、少しづつですが学会に論文も出せるようになりました。先生方にはその後も毎年継続してタイに行っていただき、さらには現地教員も毎年二名づつ東海大学に来て半年間研修するなどしていますので次第に研究も活発になり、昨年の十月チェンマイ大学でのタイ国の機械工学シンポジウムでは、殆どの大学が二から三編しか発表していないのにKMITLから十一編の論文が発表されました。発表論文の総数三十五編ですからその約三分の一をKMITLの機械科が占めてしまい、他の大学から非常に注目されました。今年度は全教員が学会で口頭発表するという意気込みで皆頑張っているようです。後任の橋本先生はさらに研究を充実させ、雑誌に投稿できるような論文を書けるように、また何名かの教員が将来博士号を取れるようにと頑張っておられます。一方社会貢献の方も最終年度ではなく、三年目の終わりにタイの高専の教員を対象にCNC工作機械セミナーを開催するなど当初計画より早く達成できました。今年度は高専教員のみならず一般企業の技術者を対象にCAD・CAMおよびメカトロニクスのセミナーを開催する予定になっています。

ところで私達日本人専門家の最終任務は、このプロジェクト終了後の彼らが自立できるようにさせることであります。特に大学ですから研究面が重要な柱で、この研究体制をいかに自立させるかが課題ですが、タイ政府による研究費は一人年5万円程度しかありません。これでは研究できません。しかし、幸運なことにこの問題はタイに進出している日系企業の協力で解決しました。相談したすべての日系企業がタイの人作りに貢献できるならばと喜んで協力してくれたからです。実は日系企業側もいかにしてタイの社会に貢献できるか考えていました。多くの教員が企業との協同研究をすることになりました。教員も研究資金の提供を受けるからにはそれなりの成果を出さねばなりません。成果を出すには研究をしなければなりません。一方日系企業もタイ社会に貢献でき、社会的に良い評価を受け、また将来の求人にも役立ちます。お互いに一石二鳥です。これで足を地に着けた形で彼らが自立できる見込みができました。さらに企業の中にはいずれ自動車グループのように、非常に大きな教育研究基金をだしてくれるところもあり、この基金を使って現在機械工学科にも一名留学生も来ています。現在日本語を勉強中で、この四月より大学院で勉強します。電気工学系の卒業生同様、将来彼もきっと機械工学科のリーダーとして活躍してくれるものと期待しています。

最後に、私の研究室の卒業生長谷川孝さん（トヨタ自動車、昭和四十八年度卒）のことを紹介を致します。彼は昨年八月にKMITLの近くのサイアム・トヨタエンジン製作所㈱の製造部長として赴任しましたが、着任早々社長と共にKMITLを訪ね、将来会社も良い技術者が欲しいが、それには先ずそういう技術者を育ててもらえるような教育研究体制を作って下さいと教育研究基金の提供を申し出ました。

海外への企業進出の多い昨今です。もし機友会の皆様の会社がタイに投資したり、あるいは工場進出する、あるいはしているなどタイと関係がありましたら、東海大学と共にタイの人づくりに協力しようではありませんか。

卒業生の声

私と大学

東亜電設㈱
（動力機械工学科 昭四十六年度卒）
鈴木雅英

長い大学生活の後、さらに研究生として大学に残りました。卒研で一緒だった比企武君と共に、今は亡き種子島時休先生の研究室で、無公害エンジンの開発に取組みました。

種子島先生の指導のもと、ガスタービン、ロータリーエンジンの理論解析に始まり、卒研からのテーマであったペーパーエンジンの開発という大変な課題に挑んでいました。

ボイラーの設計から始まり、その補機としてブロアー、給水ポンプ。そして試作、燃焼実験へと進み、さらにエキスパンダーの設計、試作。蒸気発生より動力を得る迄のトータル実験まで行ないました。

種子島先生は、普段はとても優しい先生ですが、一旦研究となると妥協を許さぬ厳しく強い信念で、その実験の成果は次第に上がって行きました。今考えてもあの当時の研究としては、メーカーからの多大なバックアップもあり、大変良い条件に恵まれていたと思います。

やがて私達も学校を離れる時がきて、メーカーからの就職のお誘いもありましたが、その実験の試作を担当した工場へ、比企君と共に行くことになりました。しかし、種子島先生の指導のもとの研究では、当時としてのもとの研究は、当時としては大変高度なもので、そんな町工場のレベルでは、到底マスターできるものではありませんでした。試行錯誤しながら、結局そこを出ることとなりました。

私達は、会社を起こし、安全産業なる仕事に携わることに致しました。火、ガス、機械のコントロール、自然現象等をセーブしようとする時、あの種子島研究室の技術をもって挑むと、いとも簡単に解決してしまいます。これが、どんなライバルにも負けないノウハウとなって、私達を支えてくれているように思えてなりません。

強烈な情熱で、生き方について教えて下さった種子島先生と山口貫一先生。私達には、活きた人生の師でありました。いつ大学へ行っても、笑顔で迎えて下さる萩先生、又動力機械の先生の皆さん方。思い出すと卒業して二十数年、早いものです。偏差値などに左右されない学生生活を送ってきた私達にとって、今ではあまり考えられないほど大きな研究を、先生と学生は、実に真面目でおかしく、そして一生懸命やっていたように思えます。とにかく、人間的であったと思います。

今は、すべてが速い。しかし、どんなに進歩が速くても、自然、そして人間が優先する。それが何よりも、今の私達のベースになっているように思えます。そんなことを思いながら、今後どうOBとして、母校と関わるか、それは、私達のこれからの課題のように思います。

マツダに入社して

マツダ㈱
（動力機械工学科 昭五十三年度卒）
渡辺博之

機友会の皆様御元気ですか。

五十四年に卒業しマツダに入社して、早くも十三年が経ちました。この間遠隔地広島そして業務多忙を口実に、諸先生、皆様に大変御無沙汰いたしております。改めて、御詫びと御挨拶を申し上げます。

さて、私が入社した当時、同窓の先輩は五十年卒の吉永さん一人で、随分寂しい思いをしたものですが、その後毎年同窓生が入社し、今では四十名を数える程になりました。なかでも機友会々員は十九名と半数を占め、にぎやかな大世帯となっています。春先の新入社員歓迎会は恒例行事になっており、彼等の抱負や大学の現状、機械系の先生方の御活躍ぶりを聞く事は、我々古株の大きな楽しみになっています。大いに呑み、語り、最後に肩を組んで校歌を歌う事が、最近のパターンとなっています。

一方仕事の方では、我々機友会々員の配属先は、開発および生産技術関係が多く、大学での専門を活かしつつ、それぞれの領域で最新の技術開発に取組んでいます。

ところで、自動車産業は3Kなどと酷評されながらも、新車開発は華々しい仕事と考えられています。御蔭様で、昨年当社は日本車として初めて、ル・マン24時間レースを制する事ができました。ある調査では、このニュース後当社を志望する理工系学生が大巾に増えたと聞きます。大変有難い事ですが一方、この勝利は十八年の長い挑戦の歳月と、何百何千という人達のそれぞれの持ち場での地道な努力の賜である事を、認識して下さい。機友会の若者はそういう挑戦を、また在校生にはそんな技術者魂を養なって欲しいと思います。「飽くなき挑戦」、当社山本会長の言葉を噛みしめる此頃です。最後に皆様の御多幸と機友会の御発展を祈っています。

卒業式が近づくにつれて

東海大学大学院
佐藤和彦

東海大学に籍をおいてから、早いもので六年の月日が経過しようとしています。卒業式が近づくにつれていろいろなことが思いだされます。

思い起こせば、私が第二工学部機械工学科の四年生の春のことですが、そのときは卒業したらすぐに工業高校の教員になろうと思っていました。当時、東京都の工業高校で実習助手をしていた私は、それまで疑う予知もなくそう思っており、教員採用試験も受験していました。

しかし、その一方で、もう少し勉強したいと思っていたことも正直なところありました。

そのときから夏頃までは、自分自身の胸の中で、どうしたら一番良いのか葛藤が続き、悩みに悩んで大学院への進学を決意しました。また授業料などの問題は、第二工のときに遊ぶ時間がほとんどなかったことが幸いし、退職金とわずかの貯えで、なんとか二年間やっていくことが出来ました（留年しなくて、本当によかった）。

次に、大学院に入ってからのことを思いだすと、いろいろな思い出がよみがえってきます。

まず最初に思い出すのが、なんと恥ずかしいことに酔っぱら

自動車部品製造業
日新工業株式会社
取締役社長　安藤忠夫
本社工場・神奈川県大和市上草柳172番地
TEL 0462(64)1221 代表

ダクト消火システム・消防・防犯・防災設備販売・設計・施工・管理
安全を買って下さい
東亜電設株式会社
代表取締役 鈴木雅英（工学部卒）
取締役 比企武（S46年度卒）
〒252 神奈川県藤沢市高倉679－4　TEL（0466）45－5611㈹

在校生の声

大きな財産

動力機械工学科　石島　崇

一九八八年、東海大学動力機械工学科に入学してから、四年の年月が過ぎ、卒業を迎えることになりました。今、大学生活を改めてふり返って見ると、いろいろな思い出が甦ってきます。

私は、大学生になり、部活動、サークル活動には属さなかったものの、学園生活を通じ、実に様々な人と出会い、たくさんの友人を得ることが出来ました。その中でも特に、動力機械工学科における友人とは、卒業研究を通じ、より深い信頼関係を得られたと思います。

人によって、考え方や、進め方の違いがあることを知り、それを議論し、学びあいながら、一つのことをまとめていくことの難しさや楽しさを経験することが出来ました。その中から自分自身を成長させる、目に見えない大きな何かを、みつけられたような気がしています。

人が成長する上で、また、自分自身が成長する上で一番必要なこと、その基礎的なものが、この四年間で培われたように思います。友達は、大きな財産であるに違いありません。その様な友達を数多く持てたことを、私は誇りに思います。

大学生活で、数限りない貴重な体験が出来たことに感謝し、今後の人生にそれを大いに生かしての失敗談です（自分では、あまり記憶がないが）。

それは何かといいますと、研究室の最初のコンパの帰りに、電車を途中下車し、翌朝気づいてみると、相模川の河原で寝ていたことや夏休み明けのコンパで目の上を数針縫うほどのけがをしてしまったことなどです。

他にも人にはあまり聞かせたくないことが数多くあります。

このような話ばかり書いていると、あまり勉強していないようにとられてしまうので、話題を変えます。

次に思いだすのが、学生の本分である勉強と研究のことです（本当です！）。

幸いなことに、私のいる材料力学研究室は大所帯で、それぞれ各人が自分の研究テーマについて研究に取り組んでおり、研究でいき詰まったときには、先生や先輩が的確なアドバイスをしてくれて大変助かりました。

そのおかげで、修士論文も書き上げることができました。

このように思いだしてみるときりがないのですが、酔っぱらって河原で寝てしまったことも、授業の課題が三つ四つと重なって徹夜して勉強に取り組んだことも、研究で頭を悩ませたりしたことも、今となっては、いい思い出となっています。他にもいろいろなことが思いだされますが、本学の大学院へ来て本当に良かったと思っています。

最後になりましたが、六年間御指導くださいました東海大学工学部動力機械工学科の諸先生先輩及び同輩の方々に深く感謝し、今後、本学本学科および機友会のより一層の発展をお祈りして、卒業に際しての挨拶とさせて頂きます。

「大学生活を振り返って」

動力機械工学科　庄山　修

私が東海大学に入学してから早くも四年の歳月が経とうとしています。この四年間は非常に短く感じましたが、いろいろなことを学びました。

大学生活において、一人暮しをしたことが、一番印象に残っています。それは、田舎から出てきて何も知らない箱入りの私にとっての試練でした。炊事、洗濯、掃除など何から何まで一人寂しくやりました。しかし時が経つにつれ、そんな生活にも慣れ、充実した生活を送ることが出来ました。そんなおり、両親からの仕送りがあるにもかかわらず財政難に遭い、毎日インスタントラーメンという悲惨な日々を送ったこともありましたが、今となってはいい思い出です。

また、私は大学に入学してお酒というものを覚えました。それまで一滴も飲めなかった私を捕まえて、先輩や友人に無理やり飲まされました。そのおかげで現在は、一緒に飲みたくない奴とまでいわれるほどになりました。

四年間で一番苦しかったのはやはり勉強でした。テスト一週間前になると、友人達と集まり対策を練り、少しずつ勉強し、そして前日になると、徹夜で必死に覚えました。

卒業研究においては、実際に実験し、データをとり、それを処理するという現場での仕事さながらのことを行いました。中間発表や論文の提出の間近になると毎日が徹夜で気が狂いそうになったものでした。しかし、担当の先生や先輩方、ならびに友人のおかげでやっと卒業までたどり着くことができたことを感謝しております。

また思い出に残ったことは、たくさんの友人に出会ったことでした。いろいろな考えを持った人との出会いは、私の人生に大きな刺激を与えてくれました。その中には私に悪影響を与えた人もいました。しかし、私の悪影響を受けた人もいるかと思います。大学時代に出会った友人を大切にして、これからも何年かに一度集まり、長い付き合いをして行きたいと思います。

最後に、四年間、私達を御指導下さいました動力機械工学科の諸先生、ならびに諸先輩方に深く感謝し、今後の本学科の御発展を心からお祈り致します。

第二工での四年間

第二工学部機械工学科　柳田雅彦

この学部に入ろうと思ったきっかけは、高校の時、進路指導の先生から「夜間の学部は、仕事をした後の勉強だから大変なんだ。おまえには続かない」と言われたからです。その時、負けず嫌いだった私は、意地でも夜間の学部へ進み、四年間で（留年せず）卒業してみせると心に誓い、第二工学部に入学しました。

しかし、入学してからしばらくはさすがに大変でした。特に一年生の時は、仕事をして疲れた体で勉強するのに、体がなかなか慣れていかず、講義中の居眠りが日課となっていました。また、一般教養科目（特に英語）にも悩まされました。私は工業高校卒なので、専門の勉強はしてきましたが、一般教養科目の方は、ほとんど無に等しい状態だったからです。でも、一般教養科目の問題は、普通高校卒の友人に力を借りる事で、なんとか乗り切ることが出来ました。

また、講義中の居眠りは、「仕事をしてきて疲れているのは分かるから、うるさくしないで寝るぶんにはしょうがない」と言ってくれる先生もいて助かりました。

二年生、三年生になれば仕事にも慣れてきて、講義中の居眠りもなくなり、また、専門科目が増えてきて、学生生活にも余裕が持てるようになり、遊びの方にも力を入れられる様になりました。

この四年間の学生生活で一番の収穫は、友人だったと思います。自分と同じ様に自ら生活費を稼ぎながら学生をしている人もいれば、中には仕事もしないで遊んでいる人など色々な人達がいました。悩み事を相談するとみなそれぞれの考え方を持ち、色々なアドバイスをしてくれます。夜間の学生は、仕事と学生の二足のわらじを履いているので、そのアドバイスも現実的で的をえたものでした。

また、遊びにしても、いろいろな遊び方を知っており、人を飽きさせるということがなく、この方面でも色々勉強になりました。このような友人が得られたのも夜間の学校だからだと思います。

世間では、夜間の学生は遊ぶ時もなくて大変だと思われているようですが、時間がなく、忙しいとかえってその時間をどう使うか考えるようになるもので、忙しいと逆に生活が充実してきます。

初めは、意地や反発から選んだ第二工学部でしたが、良い先生方、良い友人に恵まれて、今ではこの東海大学第二工学部に進んだ事を幸せに感じています。そして間もなくその大学を卒業できるとは全く感慨無量でありまた大きな誇りでもあります。

まだまだ未熟な自分ですが、これから先一歩一歩着実に自分を成長させることに努めたいと思います。

最後に、諸先生方に四年間暖かく見守って頂き、学生生活を有意義に過せたことに、深く感謝すると共に、厚く御礼申し上げます。

東海大学に入学して

動力機械工学科　望月義貴

私が東海大学に入学して早くも一年が経ちました。入学時、私は附属出身という事もあって附属どうしでかたまってしまうのではないかという不安がありましたが、そのような事もなくみんなと仲好くできたのでよかったと思います。

私は子供の頃から自動車が大好きで、将来は自分の手で車をつくりたいと思っていました。ホンダがF−1に復帰して活躍するようになり、ホンダの総監督になると決意し、高校一年の段階で動力機械工学科を希望していました。

また、私の父が機械科の第一期生なのです。父は静岡の東海大附属第一中学校から東海大学へ、私は東海大附属相模中学校から東海大学へと、父と私は同じような経歴を持っていて、父は親でもあり先輩でもあるのです。親子で機械科に在籍するのは始めてのケースらしく、先生方の中には父の在学中の先生や同級生の方がいらっしゃいます。そのため、先生方から気軽に話しかけてくれますのでとてもうれしく思っています。が、父の学生時代と私とが比較されるのはとても辛い事です。

大学で勉強したい事はやはり自動車の事です。その中でもエンジンについて勉強したいと思っています。

自動車は現代社会の中で重要な位置にあると思います。環境問題や資源問題といった二大問題をかかえている物なのです。低燃費エンジンなど色々な対策が考えられていますが、今後さらにこのような事を開発し改良していくのは私たちの役目だと思います。そのためにも多くの事を勉強しなくてはなりません。この学科のように一年時から専門科目が多くある学科は珍らしいと思います。しかし、それだけ私たちが学ぶ事は重要な事ばかりだという事だと思います。

順調にいけば、四年間で終わりですが、自分の子供の頃の夢を果たすために有意義に過ごしたいと思っています。

最後になりましたが、今日の動力機械工学科を築きあげた諸先生方、ならびに諸先輩方に深く感謝し、私たちがさらに飛躍させたいと思っています。

編集後記

この第十号は、ある種の感慨を覚えながら、機械系工学科設立三十周年記念および卒業特集を編集いたしました。

故松前重義先生と共に、東海大学の歴史を切り拓かれた故牧野不二雄先生の思い出。タイ・モンクット王工科大学技術協力の成果などが、新卒業生の抱負とダブって、巨大な樹木のように成長して見えてきたからです。

しっかりと大地に根を張った巨木が、みずみずしい緑の枝を広げて、限りない成長をつゞけてくれることを、心から祈って止みません。

東海大学機友会平成2年度会計報告

平成3年3月31日現在

収入の部	(単位　円)	支出の部	(単位　円)
前年度繰越金	5,093,752	事務諸経費	138,509
平成2年度生会費納入金(270名分)	2,629,820	会報発行諸経費	2,526,388
既卒者会費納入金(17名分)	169,040	会員名簿(1989年度版)発行経費	378,800
会報7号掲載広告料(8社分)	259,382	卒業生勧誘事業経費	225,699
卒研ゼミ特集号1号掲載広告料(2社分)	110,000	幹事会諸経費	217,870
懇親会費(26名分)および御祝儀	210,000	総会・懇親会諸経費	749,327
預金利息(横浜銀行分)	35,454	雑費	180,762
		小　計	4,417,355
		次年度繰越金	4,090,093
合　計	8,507,448	合　計	8,507,448

平成4年2月29日　上記監査の結果、相違のないことを認める。

監査　佐々木彰・伊藤昌夫

〒108 東京都港区白金1−7−20
信友印刷株式会社
TEL 03-3444-2481(代)
FAX 03-3444-2482

EASTERN TECHNICS
イースタン技研株式会社
(旧社名／レグセル工業株式会社)
資本金 5,000万円　取締役社長 河西正彦（昭和41年度機械卒）
放電加工機器、ワイヤー・型彫電極　プレス金型、専用機械設計製作
本部・藤沢工場　〒252 神奈川県綾瀬市上土棚701　TEL 0467-76-8411(代)
大和工場・営業所　〒242 神奈川県大和市福田6-9-20　TEL 0462-68-3131(代)
埼玉営業所　〒330 埼玉県大宮市宮原4−1−9　TEL 048-667-4045(代)